

小栗上野介情報 51

ホームページ <http://tozenzi.cside.com/>

Eメール: sharmila@theia.ocn.ne.jp

2012(平成24)年3月

発行 東善寺 住職 村上泰賢

群馬県高崎市倉淵町権田169

〒:370-3401 TEL&fax:027-378-2230

振替 00120-1-406206 東善寺

小栗まつりは予 告 5月27日(日)

◆命日の慶応四年 閏 四月六日(うるう) = 西暦5月27日です)

◆ことしは小栗上野介父子主従の非命没後145回忌です。

小栗まつり おもな予定 5月27日(日)

◇第1会場(倉淵小学校)で午前10時～

式典・講演 絹と光 — 知られざる日仏交流
100年の歴史 —



クリスチャン・ポラック氏(日仏交流史研究家・セリク社長)

横須賀造船所の影響を受けて完成し、その後の運営にも強い影響を受けたことから「横須賀の妹」とも言われる富岡製糸場。横須賀、富岡そして日本に花開いたフランス文化を語る。

◇第2会場(東善寺)で 午後1時～ 墓前祭

墓参/記念演奏会・群馬マンドリン楽団

たのしい昼市 は午前11時ころから第2会場で開始します

≪講演の講師≫クリスチャン・ポラック 氏

フランス生まれで、昭和46年以来日本に在住。日本と韓国、アジア、ヨーロッパの経済・産業界トップとの交流の輪を広げてきた。

■セリク社長/フランス社会科学高等研究院日本研究会客員研究員/一橋大学大学院国・公共政策教育部客員教授/在日フランス商工会議所副会頭/文部科学省より日仏交流活動に貢献し表彰



・日仏外交・交流史研究家としての著作活動(仏、英、日本語版)

・日本におけるフランス関連展示会の企画、また芸術活動の後援

〈著書〉『仏文日本歴史事典』『日本の深層構造』『本田』『函館の幕末・維新』『絹と光』『筆と刀』『維新とフランス』など

昼市▲ 出店申し込みは、5月15日までに 東善寺へ

近年、出店申し込みが多くなっています。地元の手作りのお店を歓迎しますので、グループの資金作りなどにふるってどうぞ。

ボランティアスタッフ募集

手づくりの小栗まつりでボランティアスタッフを募集します。

(県・町の内外を問いません)。

26日(土)午後1:30集合～テント張り、看板つけ、昼市準備、

27日(日)午前9:00～ 駐車場誘導、片づけなど *雨天決行*遠方の方は26日夜寺に宿泊可能(作業着・雨具・シーツ・パジャマ 持参)

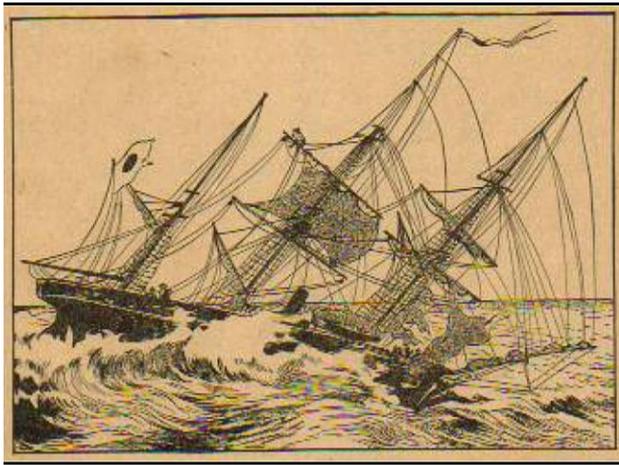
万延元年遣米使節子孫の会 発足

万延元年(1860)遣米使節子孫の会(会長村垣孝・ワシントン在住)が2月4日に都内で発会の総会を行い、2月27日に塚原辰二副会長(塚原昌義子孫)・会事務局の宮原万里子(村垣範正子孫)、会員岩本美和子(立石斧次郎子孫)・長野和郎(立石斧次郎子孫) ▲参拝のメンバーと



氏が小栗公の墓に参拝し、小栗公の帰国後の業績に触れてゆきま

咸臨丸「神話」



小栗上野介が手がけた幕末の日本近代化を語るには遣米使節の史実を確認することが欠かせない。ところがほとんどの日本人は遣米使節の歴史を知らず、「遣米使節勝海舟が咸臨丸で渡米した」と誤解している。

なぜ日本人は「遣米使節」を知らなくて「勝海舟」「咸臨丸」を知っているのか、なぜそうなったのか…、調べると意外な事実が判明した。結論から言うと、戦前の日本人は大正7年以来、

- 国定の歴史教科書で「遣米使節」「勝海舟」「咸臨丸」をいっさい教えられていない。……ところが、
- 国定の修身教科書で「勝海舟」「咸臨丸」の話（だけ）を教えられていた。

日本人は小学校の国定修身教科書で、勝海舟と咸臨丸の誇張された話を教えられ、「それが歴史」と錯覚していたことになる。

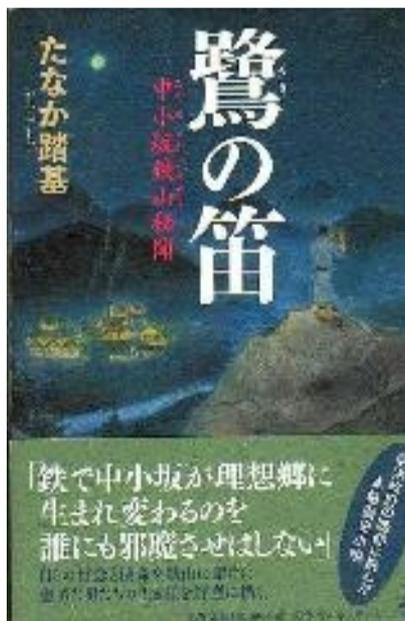
その誇張は咸臨丸に関していえば、

- 1 「日本人初の太平洋横断」と
 - 2 「日本人だけで航海した」
- を柱とするかなり誇張された話なので「咸臨丸神話」と名付ける。

◇以下詳しくはこの秋発行予定の「たつなみ」37号（小栗上野介顕彰会機関誌）に掲載します。

小説『鷺の笛』 発刊

たなか踏基著・幻冬舎刊 1,680円（税共）



小栗上野介が幕末近代化の一環で日本もアメリカのような「鉄の国」にしたいと考えて、調査をし、開発を進めた中小坂鉄山（下仁田町）をめぐる小説で、小栗公も登場します。

巻末【解説】の「真の武士 小栗忠順」を住職村上泰賢が書きました。日本の産業革命の地横須賀製鉄所の建設を進めた小栗公が、調査を指示し開発構想を進めた中小坂鉄山は、小栗公が殺された後に鉄の生産が行なわれ、現地にはかつて溶鉱炉もありました。

◇5月13日ごろに（上海で）

放映の予定

中国・上海第1财经テレビが、8回連続のドキュメンタリ番組「黄金」の第6回に放映したいと、日本の近代化に尽した小栗上野介の業績を訪ね、撮影とインタビューを行いました。



陸燿欣（リク・イシン）氏ほか2名のスタッフは、2月10日～11日に取材、住職へのインタビュー、小栗公主従の墓、境内、遺品、史料パネル、観音山邸址、顕彰慰霊碑を撮影し、横須賀へ向かいました。

◇ドキュメンタリ・シリーズ「黄金」は中国、日本、インドを代表とするアジア諸国家の文化の特性と差異が、国家の運命にいかなる影響を与えたかを探る番組。

◇司馬遼太郎が小栗公を「明治の父」と評価して、中国でも小栗忠順や横須賀製鉄所の歴史的な重要さが認識されてきた。今回の取材で、小栗忠順の業績や日本近代の「学習精神」の歴史的意義を中国の視聴者に伝えたい。

と、たくさんインタビューを受けました。

【おもな質問】・小栗公はアメリカで何を見たか。最大の意味のある見学はどんなものか／小栗公がアメリカから持ち帰ったネジ釘は、その後の日本の近代化にどう役立ったか／ワシントン海軍造船所見学が日本の近代化にどう結びついたか／横須賀造船所はその後の日本の近代化にどう役立ったか……。

◇通訳兼インタビュアーの女性記者は最初から「小栗様」と言うので「どうしてその言葉を知りましたか」と訊ねると「杭州の章太炎博物館の若い学芸員が小栗さんでなく小栗様と呼ぶように、と教えてくれました」という返事にびっくり。うれしい話でした。

◇「どれくらいのエリアの人が見ているのですか？」と聞くと、「約5億人です」に唖然としました。中国はでかい——。

◇3月26日（月）22：00～BS-TBS⑥「ナンバー2」でも「小栗上野介」を放映

約1時間、小栗上野介の業績を放映します。どうぞご覧ください。

* 上海テレビとは別の番組です。